

四谷の

千枚田だより



第 152 号

横浜ゴム新入幹部研修

四月五日、横浜ゴム新城工場新入社員十五名、本社工場などから大卒七名の研修生を含め総勢三十五名が「日本の棚田百選」四谷の千枚田で研修を受けた。

九時到着、研修開催にあたり市鳳来総合支所地域整備課安形課長からの歓迎のあいさつを皮切りに保存会のメンバーは会場設営に、お母さん達は昼食準備に係わった。

講師の(舜)は、高低差二百メートルに広がる棚田の厳しい耕作条件を働く百姓の苦勞、その変遷を話した。また、十王堂では文化継承が棚田保全に繋がる等々を説いた。また、横浜



ゴムが千枚田で取り組む河川モニタリング調査や二か所に造成された

たピオトープの実践を長谷川班長から説明を受けた。(舜)はピオトープは「生きものの空間」であり、千枚田は「癒しの空間」であると補足した。

十一時、ふれあい広場の環境整備を実施。この作業は四月二十四日、第二回奥三河パワートレイルのエイドステーションに指定されており、参加選手に心地よい雰囲気を出せばとの思いから環境整備をお願いした次第である。

昼食は千枚田のコメをたらふく食べた小憎らしいブランド肉?のシシ汁と湧水・天日干しの贅沢品「みねあさひ」の味飯を振る舞った

ところお変わり続出でスタッフも、もてなしがいがあつた。

交流会は松下事務局の軽快なテンプで進行。冒頭に県新城設楽農水事務所鈴木建設課長から「ふるさと水と土ふれあい事業」に於ける施設整備や愛知県第一号の小水力発電装置の設置。また、環境整備、各種活動における支援の実施等々の挨拶に続き、全社員が出身地、将来展望などの自己紹介があつた。入社一週間にも満たない新人が、一日も早く工場長を目指す。には他の幹部社員も「おちおち」してられない心境を与えたようだ。

中国の工場から新城工場へ赴任された永尾工場長は「企業が環境に配慮するのは当然の使命である。」と新入幹部社員に切々と説いた。この説に(舜)は好感の持てる工場長さんと認識した。恒例の交流会は横浜ゴム、行政、保存会にも有意義な場

であつたことは嬉しい限りである。研修会場の「ふれあい広場」を全員で片づけ、社員は千枚田入口まで一気に下った。若いものに負けじと老骨(七十五歳超)に鞭打ち先導したが爽やかであつた。

研修終了にあたり、千枚田に何かとお世話になってる藤沢さんから社員の心得、また、保存会へのお礼の挨拶があつた。藤沢さんは十八歳から四十九年間、横浜ゴム二筋、叩き上げから各役職を経てきた自らの経験、体験談として「決して甘く、穏やかではなかつた、我慢と努力が報われる。」と説いた。

研修最後に初代保存会長高橋庄一が保存会員から帽子を取るなどヤジが飛んだにも関わらず、つるつるテツカンの坊主頭丸出しで「わしも八十二歳になるが、千枚田が元気にしてくれる、みんなも頑張り」と笑いを誘った挨拶でメタ。

最後の卒業式

三月十八日、連谷小学校最後の卒業式が市教育委員会、地域の各種役員など多くの来賓を迎え盛大に挙行された。

最後の卒業生となる土方陽平君は御世話になった先生や地域の皆



さん、二名の在校生など総勢四十五名の見守るなか、二年生でこの学校へ転入、優しく尽くしていただいた

地域の方々や先生、そして先輩、後輩、千枚田のことなど、僕は一生忘れないと感涙にむせびながらも感謝の言葉をしっかりと述べた。土方君の感情にこもった一言ひとことに来賓も先生方も目頭を熱くさせられた。門送りには地域の何処かから集まった総勢六十余名もの賑やかな見送りとなり、母校への感謝を胸に未来へと確かな第一歩を踏み出した。

連谷小お別れ会

三月二十六日、PTA、閉校記念事業実行委員会を先達し、「連谷小学校お別れ会」の開催を地域に呼びかけたところ先生八名を含め総勢百十三名もの方々が参集した。

このお別れ会において役員総意で総括プロデュースを任される羽目に相成った。

開会から閉会まで連谷地区の古今、学校や地区の行事、出来事など時系列に纏めプレゼンした。八人の先生は「棚田に行こう」の軽快な歌声と参加者の手拍子のなか在校生、卒業生のエスコートにより入場。中村PTA会長、夏目委員長挨拶、花束贈呈、諸先生方の挨拶、在校生、卒業生のマーチング等々で会場を盛り上げた。

懇親会は九テーブルに吉良屋さん出血大サービスの料理と松井屋さん推薦の滅多やたらに飲めない極上酒が並んだ。

アトラクションとして校長先生

お得意のギター演奏に合わせ先生方全員の合唱、また、参加者全員の「ふるさと」の合唱には忍びない寂しさを誰しも過った。若い衆が最後のお別れと企んだマーチング演奏や合唱にはステージ満杯になる粋なサンプライズ(感動演出であった。

閉会には「蛍の光」の歌詞と時代の変遷を組み合わせたパワーポイントには百四十四年、最後を偲ぶ涙の熱唱であった。

先生方の退場は参加者全員の拍手とアーチに感極まり大泣きする「泣き虫先生」を万感の思いで見送りました。

第二回パワートレイル

四月二十四日(日)、茶臼山を出走湯谷温泉をゴールに七十kmを走破する。

この大会に備え、横浜ゴム新城工

場新入、幹部研修の場で、選手走路の市道、県道の環境整備をお願いしたところ、「是非、環境貢献活動の一環として協力させて頂く。」と快い返事をいただき、大会までにエイドステーションの「ふれあい広場」から「仏坂」までの間、責任を持って実施して頂くこととなった。

豊鉄バス運行

鳳来北西部四小学校統合により、スクールバス通学となるため、豊橋鉄道バス「四谷千枚田口」本長篠駅前(一部の便は新城市民病院まで延長)が四月一日から運行された。



四谷千枚田口 境場 松下 滝上

発行 平成二十八年四月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二